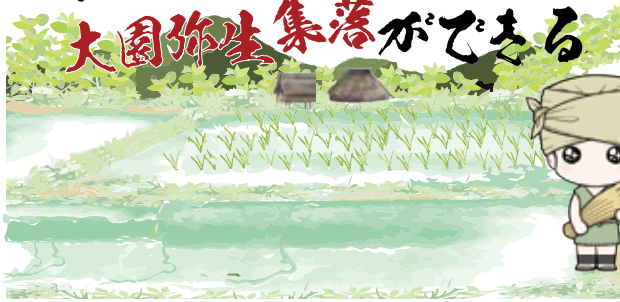


時を経て 弥生時代 大園弥生集落ができる



市制60周年記念 特別企画

VOL.1

意外と知らない 高石のルーツ



2026年に市制施行60周年を迎える高石市。
「高石の歴史を紐解くコラム」を毎月連載します。
長い年月をこえて受け継がれてきた高石の記憶を、
皆さんと一緒にたどっていきましょう。
問合せ先 地域創生課 ☎(275)6082

高石の歴史を紐解くコラム

大園遺跡と高石の歴史

大園遺跡は高石市の東南部、西取石から綾園一帯に位置し、今の大園集落を中心に、東西一・四km、南北一・一kmにわたる原始・古代から続く高石あゆみのタイムカプセルです。

出土した遺物で最も古い物は、一万四千年くらい前とされる、槍先などに使った石器です。槍で動物を追いかける、木の実などの採集をしながら移動生活をしていった様子が浮かび上がります。それが高石のあけぼのです。

弥生時代になると、今の大園集落の場所に定住の集落、弥生ムラができました。



大園弥生集落で米作りが
はじまった時に米などを
煮炊きした土器

近くの小さな谷あいのお米を一つ一つ暮らしていました。集落と水田のある風景は高石の原風景といえます。

古墳時代も後半になると、大園集落の周辺にいくつもの集落が出現し、耕地の開発が進みました。ヤマトの王権が力を強めた時期にあたり、加えて古代から中世の「日下(草)部郷」という地名や「万葉集」に見える「大伴(氏)の高師浜」などからも、その開発が王権と強い関わりがあったと思われます。

飛鳥時代の七世紀後半には一般の集落だけでなく、有力な古代豪族により寺院も建てられています。軒瓦や塼(粘土の板に掘った仏像)の出土からそれがわかります。

鎌倉時代になると、「草部郷取石村」という中世の村が史料に現れます。当時、この地に取石氏という有力な一族がいました。取石氏といえば平安時代の初期に編纂された「新撰姓氏録」に登場する古代氏族の取石造が思い起こされます。「造」は「御奴」で、職掌で王権に仕えた一族です。

高石にはかつて五ヘクタールを超える取石池という大きな池がありました。そこから流れ出す今川という灌漑水路の近

傍では、七世紀前半の掘立柱建物が見つかっています。

また、万葉集に「取石の池」をうたったと思われる次の歌があります。

「妹が手を 取石の池の 波の間ゆ 鳥が音異に鳴く 秋過ぎぬらし」

これらのことから、古代における取石地域一帯の開発、その担い手のひとりとして、古代取石氏の姿が浮かんできます。大園遺跡の発掘で、取石村の実態も明らかになりつつあります。綾井の専稱寺は、その一族の城館と考えられる綾井城の跡です。このように郷土の歴史を鮮やかに物語る大園遺跡は、豊かな歴史文化香る魅力あるまち高石の誇るべき文化遺産です。

文化財クイズ

大園遺跡を発掘中に見つかった大園古墳。
この大園古墳の墳形(古墳の形)は？



①前方後方墳



②帆立貝形古墳



③円墳

正解は9ページ

新年のご挨拶申し上げます



市制60周年

文化芸術・スポーツをまちの鼓動へ



高石市長 畑中 政昭

新年あけましておめでとうございます。
市民の皆さまにおかれましては、健やかに新しい年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は大阪・関西万博の開催を通じて国内外から多くの人々が関西を訪れ、未来に向けた活気を感じる一年となりました。そして本年、高石市は市制施行60周年という大きな節目を迎えます。これまでの歩みを支えてくださったすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。

この記念すべき年に、これまで取り組んできた子育てや教育、福祉、防災、環境といった施策を着実に進めるとともに、文化芸術・スポーツの振興にも力を注ぎ、心豊かに暮らせるまちづくりを進めてまいります。

感動や創造の喜びにふれ、日々の暮らしの中で

文化の魅力を実感できるような環境づくりを大切にしてまいります。

さらに、市制60周年を記念して、本市出身で世界的に活躍されているアーティスト・ヨシスレー氏がロゴマークをデザインしてくださいました。高石の魅力を国内外に発信するこのロゴとともに、文化の力でまちの未来を彩ってまいります。

また、「高石市×マダガスカル マダガスカルフェア」では音楽や食文化を通じて交流を深め、マダガスカル産バナナを活用したジェラートも完成し、ふるさと納税の返礼品として提供が始まりました。地域と世界を結ぶこうした取り組みを今後も広げてまいります。

市民の皆さまと共に、次の世代へ誇れる高石を築いてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

市民の皆様と共に
魅力あるまちへ



高石市議会議員 明石 宏隆

明けましておめでとうございます。
市民の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、関西、そして日本にとって大きな節目の年となりました。大阪・関西万博が開催され、国内外から多くの人々が訪れました。

また、関西出身の日本人研究者がノーベル賞を受賞し、世界に認められたことは大きな誇りであります。

さて、高石市は、今年で市制施行60周年を迎えます。この60年の歩みを振り返ると、地域の発展とともに私たちが直面したさま

ざまな課題を乗り越え、今日の姿に至ることができました。

これは、ひとえに市民の皆様のご協力の賜物であり、心から感謝の意を表します。今後、議決機関としての機能や役割を十分に発揮し、安全・安心で持続可能な魅力あるまちづくりにむけて、より一層努力してまいります。

市民の皆様には、市議会に対し、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。